# 特集　英米文学／研究書のススメ

## 日本英文学会第95回全国大会

開催：2023年5月20日（土）・21日（日）

日本英文学会第95回全国大会プログラム→

### 日本英文学会第九五回全国大会に寄せて

## 日本英文学会はもうすぐ百周年らしいという恐ろしい事実をめぐって

阿部公彦

先日、英文学会事務局の打ち合わせの際にこんな発言をする人がいた。「そういえば英文学会って、もうすぐ百周年ですよね」。まさに青天の霹靂（へきれき）である一同、大沈黙となった。（Zoomなのでよくわからないが、たぶん。）

おそらく事務局関係者の脳裏をよぎったのは「百周年記念事業」なるものに伴う怒濤のような事務作業だったと思われる。何ということだろう。何という不運だろう。

ところが、その後、ウィキペディアの「日本英文学会」という項を見てみると「一九一七年に設立された云々」と書いてある。なんだ。もう百周年はすぎているじゃないか。ちょうど、気がつかないうちにアルプスの峠を越えてしまった『序曲』のウィリアム・ワーズワスと同じように、英文学会の百周年も気がつかないうちに過ぎていたのだ。実に英文学会に似つかわしいではないか！

しかし、私はそこである場面を思い出した。それは一種の「嘆きの場」だった。「場」の中心にいたのは、イタリア風の装いに身を包んだ人だった。年齢はよくわからないが、エレガントに飾られた目元には、イタリアの風が吹きつけていた。

彼女は居合わせた人に向かって訴えた。「さっき、一七年も付き合っている恋人と会ったのだけど、明日があたしの誕生日だということを口にせずに帰ってしまった」「せめて今日はディナーくらい一緒に食べるかなあと思ったけど、ぜんぜんなかった」「これまでの一七年、一度も私の誕生日を忘れたことはない。いつもプレゼントを用意してくれた」。ショックが大きいようだった。そうして彼女は一同に意見を求めた。いったい、どう思う？　と。

「うっかり忘れたのさ」と強く反論。「おぉ、ありがちですよ」といった答えがあった。「別れの予感からだ。固有のものなんだから」と言う。

へえ、そうか。周年という小さな歓声があがり、「……ならありうるかも」となった。

「誕生日ってそんなに大事？」と言う人もいたが、別の女性が「いやいや。そこはおさえなきゃ駄目でしょ」

正月とは違うんだからなんなの？　と言う。

なんて、正月とか花見みたいなものだと思っていたけど、そういう言い方をすれば、たしかに百周年は英文学会にとっては固有のもの。それを忘れるのはよくなかったかもしれない。英文学会は怒るだろうか。恋人に誕生日を忘れられた人のように傷つき、すねるだろうか。嘆きの場に打って出るだろうか。

それから私はウィキペディアを熟読した。すると恐ろしい事実が判明した。何と英文学会の百周年は二〇一七年とも言い切れないようなのだ。二〇二五年、あるいは二〇二九年との説もある。実にあいまいなのだ。まだアルプスの峠は越えていなかったのかもしれないのである。下手をすると、百周年を何度も祝うことにさえなる。一年に何度も誕生日が来るようなものだ。やはりネット情報だけでは、不確かなので、本格的な調査が必要だ。

そこでふと考えた。いっそのことサプライズではどうか。百周年の前日に、突然「ヤッホ～」などと叫びながら、東急ハンズで買った誕生日アイテムで仮装して英文学会事務局で踊り、騒ぐ。いずれにしても私はその場にはいないだろう。想像するだけならまったく自由である。

（あべ・まさひこ＝日本英文学会会長・東京大学教授）

## 私の研究テーマを紹介します

二〇二三年五月二〇日（土）、二一日（日）に英文学会第九五回全国大会が関東学院大学関内キャンパス（神奈川県横浜市）で開催される。今回の研究発表・シンポジウムは三年ぶりに対面実施が復活、またこの数年ですっかり定着したZoomを利用してのライブ配信でも実施される。全国大会開催を機に「英米文学／研究書のススメ」と題して各出版社お薦めの書籍をご紹介。

また、英文学会全国大会にあわせて、日本英文学会会長の阿部公彦氏には「日本英文学会第九五回全国大会に寄せて」のご寄稿、シンポジウムや研究発表をする研究者には自身の研究テーマに関するエッセイを寄せてもらった。

（編集部）

### 「英学」の一環としての「英語達人」研究

斎藤兆史（東京大学客員教授）

シンポジウム

**英語教育物語を紡ぐ**
**ナラティブが照らす学びと教えの当事者たち**

講師

私は、今では英文学会の英語教育部門担当と見なされることが多いが、本来英語教育研究の専門家ではない。学会員たる英米文学や英語学の研究者の多くが大学の英語教師でもある以上、同学会に元々存在していた英語教育部門を復活・活性化させるべきだと主張し、その実現に力を入れてきただけである。学生・院生時代はディケンズの文体を研究していたから、英国小説関係のシンポに誘われれば、喜んで登壇する。

では、本当の専門が何かと問われれば、手っ取り早い答えは「英語文体論」である。主として英語文学の言説を言語に即して分析・研究する、文学研究、英語（言語）学、英語教育にまたがる学際的な学問だ。さらに私は、そこに教養やゼネラリズムの理念を加えた「英学」（明治期の実学とは別物）という概念を用いて自分の専門を説明することがある。自ら主宰する研究会を「斎藤英学塾」と名づけたのも、塾生各人が英語関連の学理をバランスよく学び、文学、語学、教育なんでもござれの万能研究者になることを願ったからだ。

私が「英学」の一環として取り組んできたことの一つが、日本の「英語達人」たちの伝記的研究である。新渡戸稲造、岡倉天心をはじめ、基本的に日本にいながらにして母語話者顔負けの英語力を身につけた日本人がいる。中には斎藤秀三郎や勝俣銓吉郎のように、海外留学経験を持たない達人もいる。日本人英語学習者にとってこれほど格好の手本はないにもかかわらず、日本の英語教育研究者はその英語学習・運用に興味を示さず、相変わらず英語圏で開発された教授法や教育理論ばかり捏ね回している。

シンポジウム第12部門「英語教育物語を紡ぐ」は、そのような英語教育研究のありかたを問う。（さいとう・よしふみ＝英語文体論・英学）

もりでいるが、ほかの登壇者たちが扱う物語も、舞台は小学校から大学に至る教育機関、主人公は学習者、日本人英語教師、外国人指導助手と多岐にわたる。一回のシンポで日本の英語教育の改善策が明快に提示できるとも思えないが、明るい光の一条でも差し込んでくれないかと期待している。（さいとう・よしふみ＝英語文体論・英学）

※価格は税込み（10%）表記

### 言葉を紡ぐ
**英文学の10の扉**

四六判・264頁・3080円
**渡千鶴子責任編集、橋本史帆編著**　「執筆者の英文学の読みが、読者の楽しみの手掛かりになれば」との思いが込められている、研究者10名による論集。
音羽書房鶴見書店

### 諧謔の詩神
**英国十八世紀のバーレスク詩を読む**

四六判・520頁・5500円
**海老澤豊著**　十七世紀末から十八世紀前半にかけて英国で流行したバーレスク詩を読み解く。高遠な文体と些末な主題との齟齬が生む「おかしみ」とは？
音羽書房鶴見書店

### 喜劇論

B5変型判・244頁・3080円
**原公章訳**　漱石にも大きな影響を与えた小説家・詩人ジョージ・メレディスによる著作のおよそ70年ぶりの新訳。小説『エゴイスト』の序章も収録する。
音羽書房鶴見書店

### 書くことはレジスタンス
**第二次世界大戦とイギリス女性作家たち**

A5判・256頁・3300円
**河内恵子編著**　「書くこと」によって真摯に戦い続けた女性作家たちと作品についての論集。英国小説研究の第一線で活躍する7名が独自の視点で執筆。
音羽書房鶴見書店

### 大学受験から翻訳実務まで英文法徹底詳述集ダイジェスト
**英文法徹底詳述集2・3集（＝本編）の縮約版＋α（＝基礎編）**

A4判・370頁・4950円
**一宅仁著**　本編の要所をまとめた、検索が容易な使い易いダイジェスト版。他書には無い内容も豊富で、翻訳や指導に必携の書。弊社HPをご覧ください。
英文研出版

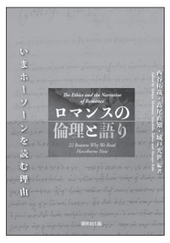
### グッバイ、コロンバス

四六判・224頁・1980円
アメリカの作家、フィリップ・ロス伝説の青春小説が中川五郎氏の新訳で甦る。ほろ苦い青春期の恋を瑞々しい文体で描いた永遠の名作。
朝日出版社

### 今の生き方（上巻）
***The Way We Live Now***

【近刊】四六判・624頁・予価3190円
**アンソニー・トロロープ作／木下善貞訳**　ヴィクトリア朝時代を背景に、希代の詐欺師をめぐる金融と倫理危機を描く風刺物語。上巻近日刊行！
開文社出版

### ロマンスの倫理と語り
**―いまホーソーンを読む理由**



A5判・480頁・5280円
**西谷拓哉・高尾直知・城戸光世編著**　ホーソーン研究の現在地をしめす22人の論客による、日本ナサニエル・ホーソーン協会40周年記念論文集の登場。
開文社出版

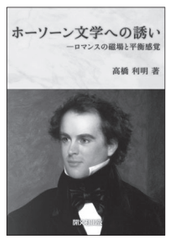
### 都市と連帯
**―文学的ニューヨークの探究**

四六判・406頁・3520円
**藤野功一編著**　1920年代～2010年代のニューヨークを舞台とした小説と演劇において、孤独の現実と連帯への希求がいかに描かれたかを10名の視点から辿る。
開文社出版

### サマー・クロッシング

四六判・192頁・2200円
**大園弘訳**　『ティファニーで朝食を』のカポーティが最初に手がけた中編小説の完訳！自由と安住の地を求めてさまようグレイディ・マクニールの物語。
開文社出版

### ホーソーン文学への誘い
**―ロマンスの磁場と平衡感覚**



四六判・252頁・3190円
**高橋利明著**　ホーソーンの共感的な眼差しは、D.H.ローレンスの言う「土地の霊」としての「ロマンスの磁場」を形成し、その文体は平衡感覚に貫かれる！
開文社出版

### 英国一九世紀小説の光景
**海老根宏文学論集**

A5判・572頁・4950円
**海老根宏著**　長年にわたる研究論考の集成。英文学の精髄を作家論、作品論を通して平易な文体で伝える。小説読解のヒントを与えてくれる綿密な索引付。
音羽書房鶴見書店

### 英文精読教室
**＜全6巻＞**

A5判・2200～2420円
**柴田元幸〔編・訳・註〕**　1. 物語を楽しむ／2. 他人になってみる／3. 口語を聴く／4. 性差を考える／5. 怪奇に浸る／6. ユーモアを味わう
研究社

### ジョン・ミルトンのラテン語詩全訳集
**ラテン語詩原典の比較対照版テキスト（1645年版、1673年版）付**

A5判・204頁・3080円
**野呂有子監訳／金子千香訳**　ミルトン自身による私選集2冊に収められたラテン語詩全27篇とその日本語翻訳を関連資料とともに収録。
金星堂

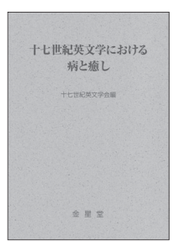
### 多次元のトピカ
**英米の言語と文化**

A5判・636頁・6600円
**植月惠一郎・奥井裕・野村忠央・大森夕夏・加藤良浩・近藤直樹・藤原愛編**　欧米言語文化学会30周年記念出版として35篇の論考を収録。
金星堂

### マーガレット・フラー　近代への扉
**ジェンダー、階級、そして人種**

A5判・372頁・3300円
**上野和子著**　アメリカ初の女性ジャーナリスト、フラーの伝記。フラーの視点から、近代幕開けの時代を読み解く。
金星堂

### 十七世紀英文学における病と癒し
**十七世紀英文学研究XX**



A5判・271頁・5280円
**十七世紀英文学会編**　十七世紀イギリスを「同時代」として感知できるような今の状況にあって、あの時代の文学を「病と癒し」のテーマのもと論じる。
金星堂

### 自然・風土・環境の英米文学

A5判・464頁・3630円
**富士川義之編**　自然環境の変化への危機感が高まっている現状を踏まえ、自然環境や風土から生まれ出る文学の言葉や表象がいかなるものなのかを探る。
金星堂

### アメリカ東海岸
**埋もれた歴史を歩く**

A5判・218頁・2420円
**D.S.セセルスキ著／樋口映美編訳**　NC州大西洋岸の歴史を掘り起こす著者のブログを通した歴史の捉え方と叙述の方法。エッセイ10編を収録。
彩流社

### 父と息子の物語
**ユダヤ系作家の世界**

四六判・312頁・2970円
**広瀬佳司・伊達雅彦編著**　ユダヤ系文学の原点「父と息子の関係」に光を当て、ユダヤ系の親子関係の〈普遍性〉と〈特殊性〉をあぶり出す。
彩流社

### 19世紀アメリカ作家たちとエコノミー
**国家・家庭・親密な圏域**

A5判・288頁・3520円
**真田満・倉橋洋子・小田敦子・伊藤淑子編著**　資本主義経済下、金銭問題と向かいあう作家たち。エコノミーの視点から19世紀米文学を解きほぐす。
彩流社

### アメリカ研究の現在地
**危機と再生**

A5判・388頁・3850円
**伊藤詔子・中野博文・肥後本芳男編著**　文学・歴史・政治・社会分野の研究者26人の論文とコラムを集成。中・四国アメリカ学会50周年記念出版。
彩流社

### 21世紀×アメリカ小説×翻訳演習

A5判・198頁・2420円
**藤井光〔著〕**　現代アメリカ文学を題材に文芸翻訳の基礎から応用までを多様な訳文候補の検証と対話形式で解説。アメリカ文学の「いま」と今後も展望。
研究社

### 英国十八世紀文学叢書
**＜全6巻＞**

四六判・3080～5280円
パミラ、あるいは淑徳の報い／ガリヴァー旅行記／ペストの記憶／オトラント城　崇高と美の起源／アフリカ人、イクイアーノの生涯の興味深い物語　他1巻
研究社

**日本英文学会全国大会開催を機に**